



素長たより

no.5 R8.5.18 (Mon)

* * * 「泣く事」について思うこと... * * *

私達の保育の日常・現場ではよく子ども達の涙に出会います。
 子ども達は自分の感情を涙に変え、精一杯の思いで、天を仰いで泣いています。そんなひたむきな子ども達の姿に、ふと「この世の終りの様に全身で泣いていくシーンもお見かけします」
 思うんです。悲しい時や辛い時、ときには嬉しい時など、人は涙を流すことがあります。ただ、私たちは、特に親世代の私達、幼いころから、涙を流して泣くことに我慢を強いられてきたことが多いのではないのでしょうか。涙が出る程に感情が高ぶることは、どんな人にも起る自然なことなのに、とかく泣く事は悪いこと、恥ずかしい事と言われがちでは。「涙」とは本来、あふれ出る感情の自然な表れであり、流す者のますぐな心です。
 泣く事は決して悪い事ではないと、私は思います。

まてや

園という社会にデビューしたばかりの子ども達です。寂しい時だって、辛い時だって、痛い時だって日々たくさんあるはずですよ。
 大人になったらきっと、様々な心の制約が課せられます。
 長い人生の中で感情を素直に表現出来る尊い幼児期ですよ。
 だからこそその涙に対して私達も懸命に向き合ひ「泣いていいんだよ」と、全力で受けとめてあげたいと思っています。

いつかその涙も、「あんな時もあったね」と、自身も保護者様も振り返り、いい思い出になる時が来ます。その時に、受けとめて貰えた温かい記憶、寄り添って貰えた心の安心、それが自己肯定感の基盤になっていくと私は信じます!! そして、子どもの涙って、本当に純粋なんですよ。

さあ、今日も、いっぱい受けとめます!

